

2017年に天竜川で確認したミシシippアカミミガメ

Trachemys scripta elegans found in Tenryu river in 2017

2018年は河川形態の変化により生息確認できず

上 島 猛

Takeshi Kamizima

筆者は、2007年8月に、天竜川の伊那市中央橋下で、ミシシippアカミミガメを目撃した。当時は「ミドリガメ」と言われてペットショップや量販店で盛んに売られ、よく飼育されてもいた。2007年のミシシippアカミミガメは、飼育していた人が川に放したものと思われた。

しかし、その後、ミシシippアカミミガメがアメリカ原産の帰化動物であることから、環境省により「生態系被害防止外来種リスト」の「緊急対策外来種」に指定され、原則として輸入・販売・飼育・放逐が禁止されるようになった。

したがって、今後発見されるミシシippアカミミガメは、新たに放逐されたものよりも、以前に放逐されて生き延びているものや、繁殖により生まれたものである可能性が次第に高くなっていく。特に湖沼に生息するものは生息場所が限定されるため、駆除などの対象となったときは比較的効率的に対応できるが、河川等に生息するとしたら、生息場所が限定できず、駆除が困難になっていく可能性がある。

そこで、湖沼等での生息確認よりも、河川等での生息確認を急ぎたいところであると考えている。

1 調査期間・調査方法

2018年の5月から9月まで、天竜川等を通りかかるごとに流れのよどんだ場所を見つけ、カメ類の発見を心がけた。本年度は予備調査を行うこととし、特に定量的・実証的なデータが得られるような調査は行わなかった。

2 結果と考察

- (1) 南箕輪の天竜川（伊那バイパス天竜橋より200メートル上流の左岸）は、昨年ミシシippアカミミガメ2頭を発見し、『上伊那の自然』（上伊那誌自然編改訂増補版）に記載したが、今年は生息を確認することができず、また、流れや河川・河川敷の様相が変化して、生息に適した場所ではなくなった。（写真1）

この場所のように、一時的には生息できる場所でも、その後の流れの変化があれば、生息が難しくなってくる。

- (2) 天竜川にはそのほか、河川敷内に、比較的安定した水たまり（写真2）のようなところも見ついているが、生息は確認できなかった。
- (3) 河川敷から離れたところに、以前人が生活等に使用していた池などの痕跡があった（太田切川、四徳川）が、いずれも生息は確認できなかった。
- (4) イシガメ（在来種）・クサガメ（外来種）など、日本に以前から生息が確認されていたカメ類も、いずれも発見できなかった。

3 今後について

まえがきに記載の事情から、河川における調査を先行したが、来年度は北の「たつの海」南の「千人塚城ヶ池」までの湖沼（止水域）の調査を行いたい。



写真1 昨年ミシシippアカミミガメを発見した南箕輪村天竜川左岸の今年12月の様子。



写真2 天竜川河川敷内の水たまり（伊那市）